

開講科目名 / Course	総合看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	桑野 紀子	
担当教員名 / Instructor	桑野 紀子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	40	
科目の目的と概要	保健・医療・福祉システムとしてのケア提供体制の現状について理解するとともに、組織やチームの一員として連携・協働する中で、エビデンスに基づいた総合的な実践能力を強化する。また、組織やチームが協働して効果的に看護活動を行うために必要な看護マネジメントについて学ぶ。各自が本実習の全過程を通して主体的に実習を実施し、看護専門職としてのセルフマネジメント力を強化する。さらに、本実習を通して、自分の看護観を深める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉システムの中での看護職の役割と課題を述べるができる。 2. チームの一員として連携・協働した看護実践ができる。 3. 看護活動を効果的に行うための看護マネジメントについて述べるができる。 4. 学生が自ら設定した実習課題について、実習計画の立案、実践、実習の振り返りの意見交換等のすべてをセルフマネジメントすることができる。 5. 自分の看護観を深め、他者に伝えることができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<p>実習期間：2026年6月15日（月）～6月26日（金）</p> <p>実習施設：大分県下の病院、診療所、訪問看護ステーション、小児関連施設、母性関連施設、精神関連施設、地域包括支援センター</p> <p>実習方法：大分県下39の実習施設から、自己の学習動機に基づき実習施設を選択する。実習施設決定後、総合看護学実習目標に基づき、自己の学習課題と施設に応じた到達目標を設定し、担当教員の助言を受けながら実習計画を立案する。臨地実習期間中は看護チームの一員として実習し、臨地実習指導者の指導を受けながら到達目標達成につなげる。</p>	
その他の授業の工夫	<p>実習施設または病棟等に1名の学生を配置することで、現場の実習指導者と報告、連絡、相談しながら実習を主体的に進めることができる。地域密着病院、診療所、地域包括支援センターなど、第1～4段階の実習施設以外の施設で実習することもでき、看護についてより広い視点から学ぶことができる。また、適宜、自己評価を行い、目指すべき学習目標に対して、自己を省察し自己の強みや弱み、成長を確認しながら実習に取り組む。すべての看護系教員が担当教員として指導に関わり、研究室内で協力体制をつくり指導にあたる。</p>	
時間外学修	<p>事前学修：自分が実習する施設の特徴と自己の課題をふまえて既習の知識・看護技術について復習し、実習要項作成に反映させる。実習目的・目標の設定、実習計画立案、実習要項作成等一連の準備は指導教員に指導を受けて進める（6h）。</p> <p>事後学修：実習で実施した看護についての記録やテキスト等を用いて振り返り、達成できたことと今後の課題を整理する（2h）。</p>	
評価方法と評価割合	事前学習30%（要項作成、事前打ち合わせ準備等）、実習内容70%（実習態度、目的・目標の達成度、提出物等）により判断する。	
テキスト		
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	基礎、専門、広域看護学講座教員：看護師、助産師、保健師、養護教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有

	内容	看護師、助産師、保健師
実務経験をいかした教育内容	大分県下39の実習施設において、臨地実習指導者が日常的な業務を行いながら現場で学生を指導する。担当教員は適切な実習目標や実習計画の立案や、カンファレンスでの関わりを通して、看護専門職としての資質向上に向けて指導する。	